

市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.40

2012.11.15

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2-112-1

稲城市地域振興プラザ4F

市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112

FAX042-378-6971

E-mail: info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

いなぎ市民活動フォーラム2012

かつて縁側は、ご近所同士のお茶飲みの場でした。ところが住宅構造の変化とともに、そんなふうにお茶を飲みながら、気軽にお喋りのできる場がまちの中から消えつつあります。

そこで長野市では、住宅に限らず、気軽に寄れて仲間に見える場所を「まちの縁側」と呼んで、市内に5000か所つくろうとしています。

今回は、そんな長野での実践例も参考にしながら、稲城版「まちの縁側づくり」について一緒に考えてみたいと思います。ぜひご参加ください。

■日 時/平成24年12月15日(土)
13:30~16:30

■会 場/稲城市地域振興プラザ4F

■参加費/300円

■申込み/12月8日(土)までに
※下記サポートセンターへお申込み下さい。
※ただし、当日参加も大歓迎です。

■主 催/NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ

人と人が出会う
まちの縁側づくり



プログラム

第1部 縁側づくり稲城版の紹介

探してみると市内にも、個人や団体で「まちの縁側づくり」に取り組んでいる事例が結構あります。そんな取り組みを紹介していただきます。

第2部 基調講演

~ひとりから始める縁側から、多様な縁側探しの取組み~

講師：小林博明氏(まちの縁側育みプロジェクトながの世話人)

第3部 話し合い(トークカフェ)

小グループに分かれて、稲城でもできそうな縁側づくりのアイデアをみんなでおしあわせ、楽しいおしゃべりの場です。

【問合せ・申込み】

市民活動サポートセンター(協働推進課内) 042-378-2112

あつたぞ 稲城版

まちの縁側

長野市では、ヒト・コト・モノがゆるやかに
行き交う場、「地域共生の場」を「まちの縁側」
と呼んでいます。なるほどと思って探してみ
ると稲城にも素敵な「まちの縁側」がありました。

榎本さんちの
ホントの縁側

板浜



榎本さんのお宅（築140年）
の広い縁側は、一年中、近隣の
人たちの「だんらん」の場とな
っています。

いつでもお茶とお菓子が置か
れ、時には奥さんの手作り保存
食や四季の農産物（ミカン・
柿・イチゴ・トマト・芋・生姜
など）もいただけます。

縁側は、大きな屋敷林（ケヤ
キや山桜、スタジイ、ヒマラヤ
スギ、禅寺丸の大木など）に囲
まれ、まるで森林浴の中にいる
ようです。

また、広い庭は、四季折々の
珍しい花々が迎えてくれます。
ご家族は農園で採れた約20種
類の野菜や竹の子・栗物など、
美味しい旬の味を楽しまれてい
ます。



「たなかカフェ」

向陽台

団地1階の扉を開けると、玄
關に素敵な茶が置いてあり、そ
こにはこう書かれていました。

“まだ子どもが小さかった時
誰かとおしゃべりしたい、気持
らしい、いろんな世代の人
の話が聞きたい、いろんな場が
近くにほしい、そう思っていま
した”

“子ども達が大きくなった今
そんな場をつくりたい、そう思
い、月2回たなかの自宅で、た
なかカフェを開くことになりました”

“ゆるやかに、ながく、続けて
いければと思っています”

最初に訪ねた時は嵐頃だった
ので、赤ちゃん連れのお母さん
だけでしたが、2度目は幼稚園
児も加わって大賑わいでした。

平尾

「カフェ
いしだ
さんち」



自宅を開放して今年の6月に
オープンした「カフェいしださ
んち」、活動日は第3土曜日の
午後で、おしゃべりの他、簡単
体操、ゲームなどのプログラム
を準備するがそれに乗るかどう
かは参加者次第だそうです。

始めた動機は「ご近所の方で
第三文化センターの会食会に來
られなくなる方が多くなった。
でもいざという時にはご近所付
き合いが大事。近くに集れる場
所はないし、いっそ、我が家を
開放するのが早速」と石田さん。

もつと回数を増やし、時には
ディナーありの幅広い年代の集
まるカフェにしたいというのが
望みだそうです。その先駆けと
して12月にはクリスマスパー
ティを予定しているとカ。

講座・事業に参加して



東長沼

「いな暮らし」

「豊かな自然や食を稲城での暮らしに活かしたり、分かち合ったりできる場があったらいいなあ〜」そんな思いから、自分にできることをやってみようと始めたのが自宅のガレージの小さなお店、鈴木さんの「いな暮らし」です。

それが縁で、同じ思いの天然酵母のパン屋・SO-LA.LAの高谷さん、宅配専門の魚屋・鵜飼水産の須崎さんという仲間もできたそうです。

みかんやブルーベリーの生産者さんを訪ね、ご近所の野菜の生産者さんや手づくり小物の作り手さんと知り合うなど、“稲城のいいもの”が少しずつ増えており、世代を越えたつながりが生まれる場できたら、と鈴木さんの夢は膨らみます。

●事業（9月27日）

稲城の魅力発見 「だんらん坂浜」

稲城の魅力を再発見しようと9月27日、坂浜の皆さんのご協力をいただき約40名の方が郷土料理のうどん作り挑戦しました。

小麦粉は上谷戸産（無農薬栽培）。茹でナスをトッピングするのが坂浜流。

民生委員の中山さんの指導でどのグループのうどんも大変美味しく茹で上がり皆さん満足顔。

食後は榎本高治氏の書かれた「坂浜歴史研究会の活動」を資料として坂浜の魅力を話し合いました。

池田自治会長、水車の会から榎本一郎氏、榎本壮一郎氏が参加され坂浜の魅力を熱く話ってくださいました。

参加者からは次のような感想が寄せられました。

- ・開発前は稲城の3分の1が坂浜だったことに驚いた。
- ・若葉台にあった遺跡は縄文時代中期の大規模な集落遺跡であることが分かった。
- ・歴史研究会でまとめた冊子

▼昔から伝わる機械を使ったのうどんづくり



をぜひ試してみたい

- ・地名や屋号に興味をもった。
- ・「上谷戸ホタルのタベ」を継続的に発展させて欲しい。
- ・坂浜と若葉台とのつながり作りが印象に残った。

（和田）

●講座（10月6日）

ご近所パワー活用術 ～気になる人を 真ん中に～（part2）

講師は全国的に有名な「すずの会」代表・鈴木恵子氏と認知症の母親を介護中で、「息子介護」の著者でもある鈴木宏康氏の2名による講演会でした。

鈴木代表は、生活者の視点を忘れずにSOSに対する声かけのタイミング、言葉遣いや距離の取り方、また、身近な人との出会いを大切に

（4ページに続く）

▼講師の恵子氏（左）と宏康氏（右）



身の丈にあった実践活動を積み重ねていく。そして、行政や地域の他団体とネットワークを組み、情報共有しながらみんなで取り組む事が重要だと話されました。

宏康氏からは「助けて」と言えない男性介護者の思いや情報をキャッチする心の余裕の無さ、虐待を起こしうる寸前の介護の現状など、当事者ならではの切実な生の声を聞くことができました。

地域支援の在り方について改めて考える機会になったと思います。

また、「団体同士で人の奪い合いをしないで」という鈴木代表の言葉が印象的でした。

（廣田）

●事業（10月28日）

映画鑑賞とトークカフェ 「だんらんにつぼん」

この日は「稲城でいい映画を観よう！ 梨映会」主催の映画会でした。

映画「だんらんにつぼん」は、愛知・南医療生協50年の歴史とその活動を追ったドキュメン



▲盛り上がったトークカフェ

タリー映画です。伊勢湾台風の

後、小さな診療所を拠点に救援活動を行ったボランティアなど、308人が共同出資して始めたのがこの生協で、今では会員約6万人、立派な総合病院まで作ってしまいました。

感激したの

は、総合病院がゴールではなく、そのエネルギーをもう一度地域に返し、「グループホームなも」や「生協ゆうゆう村」など、助け合いのシステムを作っていることです。

映画の後、小池征人監督の講演、そして監督も交えてのトークカフェ（話し合い）が行われ、映画を観ての感想やまちづくりに対するそれぞれの思いなどを出し合いました。

午後1時半から6時まで、長丁場でしたが、楽しかったせいか、あつという間の4時間半でした。（小林）

午後7～9時

全席サロンスペシャル

■12月7日（金）

- ・話し手：安東 道正さん
（東長居在住）
- ・演題：「元ケラリーマン陶芸家が、やきものの歴史を語る」

稲城における縄文土器の話。稲城は奈良時代、瓦の産地だったのに、窯業地として栄えなかったのは何故か？平安時代に穴か所の窯業地が栄えたのは何故か？等々、様々な疑問を解きながら、やきものと文化について語っていただきます。

編集後記

新聞作りとは無縁だった私が編集委員の仲間入りをし、初めて記事の取材を担当しました。

朝から下キドキでしたが、その方の思いや温かなつながりづくりの活動の様子が伝わり幸せな気持ちで家路につきました。（和田）

◆ 今号の特集は「まちの縁側づくり」、素敵な取材記事が集まってしやアウトのやり甲斐がありました。12月15日のフォーラムが楽しみです。（小林）

NPO法人「市民活動サポートセンターいほぎ」の会員を募集しています。年会費3,000円